



学校だより

雪小っ子

NO. 43

西海市立雪浦小学校

校長 浅田 眞理

平成28年11月30日 発行

無人島を活用した自然体験学習遠足

鍛錬遠足を、西海市が『まち・ひと・しごと戦略』の一環として力を入れている『無人島：田島』を活用した遠足に乗り換えての自然体験学習遠足が、昨日無事終了しました。最高の天気恵まれ、青空・無風のもと無事予定通りの活動を行うことができました。

まずは亀浦の事務所裏の船着き場から大型モーターボートで田島へ。2班に分かれて上陸しました。『無人島』という響きは子供たちの冒険心を刺激し、興奮させているように感じられました。

上陸後の午前中は、縦割り班4班に分かれての探検ウォークラリー。スタッフの方々があらかじめ、おもしろい、探検らしい、少し困難さを備えた、それでいて安全に配慮したコースを設定して下さっていたので、そのコースに従い、チェックポイント2カ所をクリアしながら、アップダウンのコースをみんなで協力して歩きました。2～3kmのコースでしたが、楽しみながら1～2時間かけて歩きました。

チェックポイント1は「海の贈り物拾い」。海岸にある貝殻とシーグラスを一人1個ずつ拾うという課題に挑戦しました。これは、海の環境問題に目を向けることを狙った課題でした。

また、チェックポイント2は「魔女の家のチケット拾い」。ツリーハウスが島の北側中央付近に設置されているのですが、その入場チケットとして、田島に自生する植物の葉っぱを1グループ5枚集めてもらいました。これは植物の学習を意識した課題。その葉っぱの課題をクリアすると、いよいよ森の魔女の家に入ります。冒険心を刺激する建物で、家の中のしかけやその造りに興味津々の子供たちでした。

その後、昼食は、島の村の部分（島の西側中央に位置）で取りました。ここにはテントが2張り設置されている他、朝陽の家・夕陽の家（旧民家を改修した家）や倉庫として使われている小屋、トイレ、五右衛門風呂などがあります。また、所々にハンモックも設置されており、夏場は快適に過ごせそうな場所です。そのような場所でお弁当をおいしくいただきました。

午後は、低・中・高に分かれてのプログラムの体験。1・2年生は、ビーチコーミングといって海岸にある漂着物からアクセサリ作成を、3・4年生は、無人島の塩づくりに挑戦しました。また、5・6年生は、縄文時代の摩擦熱による火のおこし方体験をしました。火おこしの難しさに、改めて文明社会の便利さを感じた子供たちでした。（結局時間内にはどの班も火を付けることができませんでした。）

今回の自然体験学習遠足実施のために、学校としましては初めてということで、島や西海市の担当の方々と3回ほど打ち合わせを行いました。また、実際23日（水）の勤労感謝の日には下見にも行ってきました。今回は市の事業に乗っかっての活動であったため無料でできたのですが、次年度以降はお金が派生するかもしれませんので未定です。ただ、今回に限ってはすてきな体験の場を子供たちに提供できましたしこの結果には大変満足しています。この体験を、今後は俳句や川柳への表現活動に結びつけていく子供たちですが、また出来上がりましたら学校だよりにて御紹介したいと思います。

いずれにしても、多くの方々に支えられ、実り多き一日となりました。大変お世話になりました。この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。



ライフジャケットを着て



島の上陸



無人島冒険の旅



魔女の家（ツリーハウス）



みんなで記念撮影



ビーチコーミング



無人島の塩造り



火おこし体験

※ 今回の自然体験学習遠足は、市の広報（HP）や長崎新聞の取材を受けています。